

2024

9 September

Rotary International District2740

GOVERNOR'S  
MONTHLY LETTER

2024-25年度  
国際ロータリー第2740地区  
ガバナー 石坂 和彦

# 月信

Vol. 3



天正遣欧少年使節頭彰之像



2024-25 年度 国際ロータリーのテーマ



Index

Governor's message	.....	1
クラブ優秀賞のご案内	.....	2
危機管理セミナー・ロータリーファミリーの集い報告	.....	3
国際青少年交換委員会県庁訪問報告	.....	4
米山記念奨学委員会視察・研修旅行報告	.....	5
ガバナー公式訪問クラブ報告	.....	9
地区大会のご案内	.....	13
編集後記	.....	裏表紙

**表紙説明 「天正遣欧少年使節顕彰之像」**

1582年に遙かなるヨーロッパへ旅立った天正遣欧少年使節。彼らを顕彰する像が、長崎の空の玄関口、長崎空港のそばにある森園公園にあります。この4少年の像は、彼らがヨーロッパへと旅立った400周年の記念として建立されました。

## Governor's message

## ロータリー 学びの実践を！

2024-25年度 第2740地区 ガバナー 石坂 和彦

私は公式訪問をさせて戴く喜びに満ちています。

各クラブ様に本当にお世話様になり、有意義で楽しい毎日です。

それぞれのクラブが、個性と方向性をしっかりとお持ちになり、ロータリー活動を為されています。ロータリアン、そして又、ロータリークラブは“素晴らしい！”と心から感じております。これからもどうぞよろしく願い致します。

そして又、今年度も各地区委員会・各セミナーを積極的に開催して戴いております。それぞれが学びの一年の実践であります。

一つ一つが「ロータリーの価値の再発見」につながっていることを実感しております。

9月は「基本的教育と識字率の向上」特別月間です。ロータリー財団7つの重点分野の一つです。それぞれ分野は異なりますが、目指すべき目的は一つです。世界理解・親善・平和を通じて、世界中の人々の心豊かな暮らしのある、恒久平和の実現です。

去る5月に森地区幹事をチーム長とする3名が、スリランカへの国際職業奉仕の事前調査に行き参りました。当第2740地区では、ロータリー財団を始めとして様々な国境を越えた奉仕活動を行っています。それを通じて世界とつながっております。その中であってこのたび、スリランカへの国際職業奉仕を地区全体事業として実践する運びになりました。

最大のきっかけは、スリランカに精通している2016年度ロータリー財団奨学生片岡一生君との出会いがあったからです。素晴ら

しい実り多い事前調査でした。益々スリランカでの私たちロータリーの役割がとても大きいことを実感しております。

現地で交流したディリ・ララナは会員数6,000名を擁する現地の女性団体です。不正な金融による貧困の悪循環の打破を目的に1991年に設立された女性の自助グループです。

民主的な運営がなされており、基本全員参加型で事を決めています。『小規模コミュニティの会員であることが、自分を最も強い環境に置くこと。会員になれば、融資はもちろん、さまざまなサービスを受けることができ、貧困から脱却するきっかけを得ることができる。自立する生き方を選択して欲しい。』と代表者のニランティ女史は語っています。

これらの動きが、以前から行っていた自家用の洗濯石鹸作りを、売り物（商品）とする技術を学び、そしてそれを本格的によりすぐれた販売可能な商品として開発しました。更に目指しているのは、製品の原価の大半を占めるココナッツオイルを外部からの仕入れではなく、製造機械を導入し、会員自らが生産可能な体制を構築することです。

そうなれば近い将来洗濯用石鹸のみならず、ボディソープの生産、販売もしたいと考えています。

その中で余剰資金を蓄え、会員へのさまざまなニーズに応じてきており、教育資金、住宅資金、更に若い女性会員や会員の子供を日本語の学校へ留学させるための資金として当てる事を目標としています。留学先として日本に目を向けたのは、日本の経済的な豊かさに加えて、礼節のある国民性に惹かれたため

と言っています。

コミュニティの発展のみならず、新しい起業、スタートアップも引き起こして、地域経済の活性化を図れたら事業の意義が更に深まることでしょう。12月もしくは来年1月を目途に本隊派遣を実施するよう進めて参ります。持続可能な地域経済の発展につながっていくと確信しています。

もう一つ述べさせて戴きます。それは今年度重点事業の一つである月桂樹プロジェクトについてです。ポール・ハリスは、世界中で友愛と平和の象徴として植樹をしています。

ポール・ハリスの言葉です。『私たちはロータリーの木を植えました。形式に過ぎない、というのですか？その通りです。ですが、鳥は、この木々の枝に巣を作り、幾世代にもわたり人は、その木陰で憩います。私たちは、植樹を、来たる国際平和と友好の時代の先触れと考えたいのです。銃の発砲はなくなり、戦争など誰も知らない時代の先ぶれです。』

ヨーロッパにあるマディラ諸島北西部の森林地帯が、すべて月桂樹林であり世界遺産（自然遺産）に1999年に登録されました。

“地球の砂漠化”は、もはや一刻の猶予も

許されない危機です。

その危機から地球を護らなければならないのです。子々孫々にこの豊かな蒼い地球を繋げていかなければならないのです。

更にその他の地区行事も活発に展開して戴いております。

危機管理セミナー、ロータリーファミリーの集い、クラブ活性化セミナー、各国際青少年奉仕プロジェクト、職業奉仕Webセミナー等々それぞれの委員長を中心に同じ目的意識を持って開催されています。

各グループガバナー補佐の皆様に主導して戴き各グループIMも始動しております。一つ一つあげましたら紙面が足りません。

それらは全て、2024-25年度を、実り多き1年にしようとの思いに満ちあふれた、「ロータリーの学びの実践」であります。

ロータリーの誇りを！ロータリアンであることに誇りを！

「ロータリーの価値の再発見!!!」

引き続きどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## クラブ優秀賞のご案内

クラブ優秀賞（旧「ロータリー賞」）は、各年度のクラブの優れた取り組みを表彰するものです。クラブ優秀賞の目標に向けた取り組みは、クラブで会員の参加を促し、より大きなインパクトをもたらす、地域社会におけるクラブの存在意義を保ち、効率的に運営するための一助となります。人びとを温かく迎え、参加を促すクラブは、会員によりよい体験を提供できるだけでなく、ロータリーの価値観を反映していると言えます。クラブがクラブ優秀賞の目標に取り組むことで、ロータリーの力強さを保ち、次世代にとってふさわしい文化を育むことができます。

ロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブは、ロータリーとクラブを強化することを目的とした各種目標を達成することで、クラブ優秀賞を受賞することができます。目標には、会員増強、持続可能なプロジェクトにおける会員の積極的参加、ロータリー財団への寄付、地域社会でのロータリーの認識向上、戦略計画の更新などが含まれます。

クラブ優秀賞の目標は、ロータリークラブ・セントラルから確認できます。

クラブ優秀賞を達成するには、すべての目標を確認してその中から少なくとも半分を選択し、それらを達成した上で、ロータリークラブ・セントラルからその達成をご報告ください。

達成はすべて、6月30日までにロータリークラブ・セントラルから報告する必要があります。

## 危機管理セミナー・ロータリーファミリーの集い報告

ロータリーファミリー委員会委員長 **徳川 清隆** (唐津 RC)

「危機管理セミナー・ロータリーファミリーの集い」が2024年8月3日(土) 東彼杵教育会館大会議室にて、石坂ガバナーの出席の下、パストガバナー、地区役員・青少年奉仕部門委員会・米山記念奨学委員会、クラブ会長・幹事・青少年奉仕担当、インタラクターとその顧問、ロータアクター、ライラリアン(RYLA受講生)の138名参加による事業となりました。今回のプログラムは2部構成となっており、第1部では、演題「ロータリーの危機管理」片山 勉 氏(大阪東ロータリークラブ、第2660地区パストガバナー・Rijyem 副理事長)によるロータリーにおける危機管理について講演を拝聴しました。

近年、地域社会のリーダー的メンバーによって構成されるロータリーには、常に高い道徳性と社会的責任が求められており、その危機管理が問われている現代社会において、ロータリーの活動に関連して起こりうる危機に対し、率先してその社会的責任を全うする必要があるとの認識が必要であるとご教示いただきました。

併せて、国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために、安全な環境をつくり維持するために努力している。ロータリアン、その配偶者、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは精神的な虐待から彼らの身の安全を守るため、最善を尽くす責任があると唱えています。

このような観点から、今回のセミナーでは、私たちへ明確でかつ分かりやすい危機管理に関する基本姿勢を学ばせていただいた事、国際ロータリーのハラスメントに関する基本となる規定では、青少年プログラムの場合「72時間ルール」(18歳未満の場合)が適用され、速やかに国際ロータリーへの報告の義務があるとの事。更には、国際ロータリーの行動規範に従い罰則規定が生じる事態になると言う事でした。この対処として、青少年奉仕活動に対する危機管理を事例として広く、ハラスメント、プライバシーや個人情報、最近特に目

立っているサイバー攻撃や情報操作等への対処方法があり、平時からの備えとして予防とその危機へのリスクマネジメントが重要であると説かれました。そして、その取組の重要点は、危機への正しい理解を持つための研修が必要であると説かれ講話が終わりました。

参加者も危機管理の意識が深まった大変有意義な内容であったと思います。

第2部の「ロータリーファミリーの集い」では、各青少年奉仕部門、米山記念奨学部門の各委員会より活動内容や今後の計画などを報告形式で行いました。

ロータリーファミリーの当地区の定義は、青少年奉仕部門(インタラクター、ローターアクター、国際青少年交換留学生、ROTEX、RYLA受講生、米山記念奨学生、ロータリー学友、ロータリー平和フェロシップ、ロータリー奨学生、ロータリー参加ボランティア、国際親善奨学生、そしてロータリアンを含めてロータリーファミリーとしています。

それぞれの持ち部分を各委員長からプレゼンをしていただきながら、インタラクターの生徒による活動事例発表(唐津西インタラクタークラブ)やロータアクターの活動発表、ライラリアン(RYLA受講生)の研修後の体験発表を行い情報量もかなり多かったと思います。また、時折、会場への問いかけや各クラブでの活動例などを話していただきたり参加者と相互に情報共有が出来たことは良かったと思います。最後にポリをプラス委員会よりロータリーが取組むポリオ根絶に向けての現状と今後の課題への取組を告知していただきました。

終わりに、講演をいただきました 片山 勉 氏に厚くお礼を申し上げるとともに、最後までご参加頂きました会場の皆様、ご支援、ご協力頂きました方々に改めて感謝を申し上げ、ご報告いたします。



## 国際青少年交換委員会県庁訪問報告

国際青少年交換委員会 委員長 徳永 隆信 (有田 RC)

8/2、長崎県庁への訪問無事終わりましたことをご報告致します。副知事はロータリーの留学制度はご存じありませんでしたので、まずは千葉 PG よりロータリーの成り立ちと 2740 地区の活動の説明を、そして私より今年度からのプレホストファミリーの制度について説明を致しました。その後、各学生の自己紹介。副知事からも松崎君のバッジに対して驚きとご本人の留学体験をお話しになって短時間でしたが、交換委員会活動についてご理解頂けたと思います。終わりの談笑にて、副知事より出島で外国からの留学生らの交流カフェなど出来たら良いねとのお話しも。

プレホストファミリー制度は年中応募ですので是非組み込んで下さいとお願いしました。

参加皆様お疲れ様でした。皆様の体験を活かした交流がつづくことを委員会共々願っております。今後共ご協力よろしくお願いします。



## 米山記念奨学生視察・研修旅行報告

米山記念奨学委員会委員長 高谷 信一（長崎出島 RC）

2024年7月20日と21日の二日間、熊本の阿蘇から大分、別府へかけて研修旅行を実施いたしました。米山奨学生16名、米山学友4名、米山カウンセラー3名、地区委員4名に加え、今回は米山奨学生のご家族4名の計31名が参加、天候にも大変恵まれ、充実した時間を過ごさせていただきました。

初日は阿蘇の大自然を感じつつ大分へ、夕食後は米山奨学生と米山学友が交流会を実施、2日目は別府市内の地獄や高崎山を巡りつつ特に事故等もなく戻ってまいりました。熊本、大分の両県へ足を踏み入れるのが初めての学生も多く、日ごろとは違う見知らぬ日本の自然や文化に触れる機会を得て、日本を留学先として選択して良かったと感じたのではないのでしょうか。

新規の米山奨学生にとっては今年4月の採用以降、奨学生全員では初めての交流・懇親をメインとした行事ということもあり、奨学生同士はもちろんのこと、米山学友、カウンセラーさん、奨学生のご家族とも親睦を深め、お互いに刺激を受け、米山奨学生として選ばれた喜びを改めて実感したのではないかと思います。

地区の米山記念奨学委員会としましては、米山奨学生がその奨学期間終了後も、米山学友として

ロータリアンの皆さまとともに奉仕活動を続けてもらえるように導いていくことを一つの大きな目標にしております。今回の研修旅行を単なる思い出としてではなく、その目標達成のきっかけになるよう地区委員会も努力してまいります。また今後、地区行事を行うにあたって、今回の研修旅行を通じて参加者の一体感を醸成できたこととはとても有意義であったと確信しております。

米山記念奨学事業は皆さまロータリアンの寄付により成り立っております。当地区における今後の米山記念奨学事業に関わる地区行事等をより充実させることにより、少しでもロータリアンの皆さまに恩返しをするとともに、繰り返しになりますが、ロータリーの精神を学んだ米山学友として世に送り出し、国際理解と親善と平和に寄与していきたいと考えていますので、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、各集合場所への送迎等につき、お忙しい中にもかかわらずサポートしてくださいました地区委員の皆さまとそのご家族にも感謝申し上げます。

別途、米山奨学生のレポートが掲載されますので、そちらもご拝読いただければ幸いです。



## 米山奨学生 研修旅行報告書

.....  
佐賀大学 <sup>イ</sup>李 <sup>ジョンウ</sup>政祐 (佐賀南 RC)

米山奨学生としての研修旅行に参加して感じたことを書きたいと思います。他のクラブの奨学生と数回会ったことはありますが、短い時間で深い話をすることはできませんでした。しかし、研修旅行のおかげで長い時間を過ごし、多くの話をする機会を得たことをとても嬉しく思いました。今回の機会を通じて、何を学びに来たのか、日本でどんな経験をしてこれから何をしたいのかについてお互いに話し合うことができ、お互いについて知る時間ができてとても嬉しかったです。

私は今回の熊本、大分への旅行を通じて新しい旅行の魅力を発見しました。人混みが苦手なため、旅行はいつも知人に会うことが主な目的でした。しかし、熊本と大分を訪れて観光地を巡ることも非常に良い思い出になると感じました。特に阿蘇の風景は家族と一緒に訪れたいと思うほど良い印象を受けました。今後、九州の他の場所も訪れたいと思いました。

各国から集まった留学生が異なる目的と目標を持って日本に来ましたが、米山奨学生という名前で一つに集まり、同じ風景を見ながらお互いについて知り、親しくなるこの旅行がどれほど素晴らしく意味のあることだったのか、レポートを書きながら改めて感じています。このような機会を作ってくださったロータリークラブとロータリアンの皆様に感謝の意を表します。

.....  
西九州大学大学院 <sup>セツ</sup>薛 <sup>シュン</sup>春 (牛津 RC)

この度、初めて米山奨学生として、7歳の息子を連れてロータリアン、学友、奨学生達と、二日間の研修旅行をしました。最初はワクワクしながら、子どもを連れていくことが心配でした。7歳の息子が子どもらしくて、「他人に迷惑をかけるかな、みんなに嫌がられるかな、息子が楽しめるかな……」と、あれこれ思い悩んでいました。

なぜこんな悩みがあったかと言えば、これまでに参加した例会では、皆さんがまじめで、厳粛な感じがしましたからです。ロータリアン、学友、奨学生同士との交流が少なく、名前さえ呼べないこともあります。しかし、この二日間の旅行を通して、7歳の息子でもロータリークラブの輪に入って、たくさんの交流ができてロータリアン、学友、奨学生達と仲良くして、年の離れた友人になりました。帰ってから息子は未練がましい顔つきをして、「今度の旅行は楽しかったなあ。僕はまた行きたい。いいの?」と私に尋ねました。こんな話を聞いて、本当に嬉しく思いました。私はもちろん、子どもにとっても有意義な研修会でした。同い年のスリランカ人の男の子と友達になって、日本語でコミュニケーションをしたり、お互いの国の地図を探したりして、異文化理解を深めました。米山奨学生の家族までもロータリークラブの活動に参加できて感謝・感激・感動という気持ちを表したいと思います。

## 米山奨学生 研修旅行報告書

佐賀大学

ワンニナーヤカ ムディヤンセーラーゲ ワサンタ シリプスパクマール (佐賀 RC)

まず初めに、米山記念奨学生スタディツアーを企画していただきまして誠にありがとうございます。今回のツアーは本当にバラエティに富んだツアーだと思います。なぜなら今回の旅では、日本の違う（佐賀県を越えた）環境の美しさを体験する機会があったからです。そしてその多様性は、米山奨学金を受け取った仲間たちによってさらに深まりました。今回の学生研修旅行は、自分の体について改めて考えるきっかけになったと言っても過言ではありません。というのも、旅行初日、昼食後に行われた年齢に応じた体力チェックゲームが楽しかったし、自分の体力について考えるきっかけにもなりました。

また、この教育旅行中に私たち学生間の兄弟愛をさらに深めることができたことも重要です。そして、今回の旅行に妻と息子を連れて行く許可をいただいたことに特に感謝しています。息子に優しく接して下さった皆様、本当にありがとうございました。息子にとってはとても楽しい旅行でした。彼がその旅行を今でもとても懐かしく覚えていることは明らかです。

また、確かに今回の研修旅行は、大学での勉強で疲れた心に癒しを与えてくれました。特に今回訪れた地域（大分、別府）の環境は私の心を癒してくれたと言っても過言ではありません。

これらすべてに加えて食事、宿泊施設、交通手段はすべて私たちのために非常によく手配されていました。改めて、すべてをうまく企画していただき、私たちにこのような経験を与えていただき、本当にありがとうございました。

..... 長崎総合科学大学 リン ギョクヨウ 林 鈺洋 (長崎みなと RC)

皆さま、お疲れ様でした。二日間の旅行が思い出深く、素晴らしい経験となりました。

今回の研究旅行で、私にとって最も印象的だったのは、草千里の緑でした。自然に囲まれて、普段はなかなか落ち着けない私も、この場所に入ったら、何も考えず、自然の景色や美しさに心を奪われました。実は私が去年の同じ時期にも熊本の草千里に遊びに来ました。しかし、その時、草千里についたところで、すぐ大雨が降り始めて、室内に入らざるを得ませんでした。当時、馬に乗りたかったのですが、大雨のせいで、乗馬場の営業は

一時中止し、乗れなくなってしまいました。今回の研修旅行のおかげで、再び草千里に戻って、馬に乗れて非常に感動しました。たった5分間の乗馬でしたが、緑に囲まれて、とても気持ちがよかったです。

また、二日間の旅行で、最も楽しかった瞬間は、ロータリーの皆さんは一日の疲れを癒すために、奨学生たちが夜にカラオケで思い切って歌って、酒を飲みながら将来の話をしたことでした。特に、ロータリーの皆さんとの交流を通じて、異なる背景や考えを持つ

人々との素晴らしさを再認識しました。このような経験は、旅行の楽しさだけでなく、人との交流がもたらす豊かさを教えてくれました。ロータリーの皆さんとの素晴らしい夜を経て、私はより広い世界を見据え、自らも成長していくことの大切さを感じることができました。最後に写真を下に出させていただきます。

この研修旅行を通じて得た貴重な経験に感謝し、これからも多くの人との交流を大切にしていきたいと思っています。

## 米山奨学生 研修旅行報告書

 .....  
 佐賀大学 <sup>イ</sup>章 <sup>カセイ</sup>嘉城 (佐賀北 RC)

7月20日から21日の2日間、私はロータリー米山奨学生として初めて研修旅行に行きました。1日目は熊本市の阿蘇山に行きました。最初に着いたところは阿蘇ファームランドでした。昼ご飯を食べた後、肉体年齢測定館に行きました。ゲーム感覚で楽しく肉体年齢測定ができる施設で、たくさん汗をかきました。その後、阿蘇を代表する観光名所の阿蘇山・草千里ヶ浜に行きました。大きな池や放牧された馬が悠々と歩く姿など、絶好のロケーションでした。夜は別府にあるホテルに泊まりました。2日目の最初は高崎山に登り、たくさんの猿が見られることで楽しい山でした。最後は別府の観光名所、べっふ地獄めぐりに行きました。それぞれ特徴的な地獄を見て、多彩な魅力を感じました。

この2日間の旅行は短かったですが、とても充実した旅行でした。感じたことや体験したことは忘れません。ロータリーの奨学生になれて最高です、本当にありがとうございました。

..... 長崎県立大学 チュウン ホアン アン ゴック (佐世保南 RC)

先週末、奨学生や地区委員の方々と一緒に蘇厘・大分に旅行に行きました。参加者は31名で、これほど大勢での旅行は初めてでした。私は乗り物酔いしやすいので大分までの4～5時間の道のりが不安でしたが、お菓子を食べながら景色を楽しんでいるうちにあっという間に到着しました。

一番印象に残ったのは阿蘇山の草千里ヶ浜でした。ヨーロッパを思わせる美しい景色が広がり、とても美しく一生忘れられません。私たちが出発した日前は何日も雨が降っていましたが、当日幸運にも晴れていました。道中の山や森の緑も美しく、とても爽やかな気持ちになりました。広大な草原でたくさんの写真を撮り、その思い出は永遠に保存するつもりです。

カウンセラーの篠原さんも同行し、父のように優しく写真を撮ったり、美味しい食べ物を楽しんだりしました。この旅行のおかげで、新しい友達がたくさんでき、皆と話したり楽しんだりする機会が増えました。また、自分の国では経験したことのない素晴らしい体験もできました。これらすべてはロータリーの学生奨学金のおかげであり、心から感謝しています。

 ..... 長崎外国語大学 <sup>チョウ</sup>張 <sup>バンレイ</sup>万麗 (長崎出島 RC)

7月の研修旅行は、熊本、大分・別府に行ってきました。とても素晴らしい経験をしました。

行く途中、きれいな風景を見ながら、皆さんと雑談したり、地区委員からいただいたお菓子を食べたりしていました。昼ご飯の後、阿蘇元気の森で肉体年齢を測定し、普段はできない体験をすることができました。その後、草千里ヶ浜で心が落ち着いた素晴らしいひとときを過ごしました。

21日はまず、約千頭のサルがいる高崎山自然動物園で、飼育員さんから第1位のオオムゲちゃんの解説などサルに関するおもしろい解説をしていただきました。また、夏の地獄めぐりは本当の地獄のように暑かったですが、皆さんと話しながら、3か所を見ました。最後、別府港駅で大分ならではのだんご膳を楽しむことができました。

皆さんとの時間は、あっという間でした。ロータリー大家族の一員になって、とても嬉しいです。皆様とのご縁ができて、この思い出を大切にしていきたいと思います。今後の出前卓話、学友会総会交流会、皆様と会える機会を楽しみにしております。

## ガバナー公式訪問クラブ報告



鹿島 RC

7月16日(火)

会長 中村邦子

幹事 高松茂信

令和6年7月16日(火)石坂和彦ガバナー公式訪問が行われました。10時より、今や公式訪問例会では恒例になりつつある、祐徳稲荷神社における公式訪問祈願(鹿島立ち)が行われ、石坂ガバナーをはじめ森地区幹事、村島ガバナー補佐、地区副幹事、当クラブより中村邦子会長(以下会長)、幹事高松、花島パストガバナー、鹿島ローターアクトの小池パスト地区代表の総勢9名での祈願となりました。その後は例会場である割烹清川に場所を移しての懇談会、当クラブから会長、幹事、会長エレクト、花島パストガバナーが参加、主に今年度の「クラブの現況及び活動計画書」の会長によるクラブの運営計画の内容についての話が中心でした。

12時30分より公式訪問例会が行われ、石坂ガバナーより「ステファニー A. アーチック RI 会長」の2024-2025年度国際ロータリーのテーマ「ロータリーのマジック」テーマ講演の説明がありました。例会終了後13時30分より「ロータリアンと語る会」が30分行われ、当クラブから会長、入会50年余りの会員、中堅ロータリアンの3名がそれぞれ石坂ガバナーに質問をしました。内容は寄付金等、資金の流れの明確化や、クラブ設立時における会員数の再確認、会員勧誘時における会費や例会出席率等の問題等でしたが、石坂ガバナーのととても分かり易い回答を頂く事が出来ました。

朝から緊張の連続でしたが、いざ終わってみると早い一日でした。



佐賀 RC

7月18日(木)

会長 坂田勝次

幹事 田中芳樹

2024年7月18日(木)、当クラブへ石坂和彦ガバナーが公式訪問されました。例会前の懇談会では、地区からは石坂ガバナー、森地区幹事、江本ガバナー補佐が出席され、当クラブからは、野口パストガバナー、坂田会長、吉原会長エレクト、幹事である私が出席しました。会長からは、今年度のクラブテーマである「互いを尊重し、さらに友愛を深めよう」のもと、会員の親睦を深め、更なる会員増強を図るための親睦活動の充実や、当クラブが実施している奨学金制度などについてご説明いたしました。

公式訪問例会では、石坂ガバナーの運営方針の説明と月桂樹プロジェクトなど地区重点事業を中心にお話をいただきました。ご自身の経験を含めながら、とても分かりやすくご説明頂き、会員みんなが石坂ワールドに引き込まれる濃密な時間を過ごしました。その後の、若手会員を中心としたガバナーと語る会においても、率直な意見交換を実施させて頂きました。



ガバナー公式訪問クラブ報告



唐津 RC

7月23日(火)

会長 坂本直樹

幹事 太田年一

「大暑」の7月23日(火)、モーレツな暑さの中、石坂和彦ガバナー、濱口吉治ガバナー補佐、森広康地区幹事、芦塚義幸、為永淳子両地区副幹事に唐津ロータリークラブを公式訪問していただきました。

例会前の懇談会には辻幸徳ガバナーエレクトも同席され、唐津クラブの現況をお伝えするとともに、ガバナーからの所感も受け賜りました。

例会では、唐津ロータリー名物の挨拶タイム(握手の交換)を体験していただいたり、唐津ロータリー流のおもてなしで楽しんでいただきました。卓話では、石坂ガバナーが国際ロータリーの年度方針や地区の運営方針などを、詳しく、わかりやすくお話しくださいました。フレンドリーな石坂ガバナーは一瞬にして会員とも打ち解けてくださり、例会後の「ガバナーと語る会」でも、とても貴重な意見交換ができました。

ガバナーが最後に言われた「ひとりはおみんなの為に。みんなは一人の為に。」胸に刻ませて頂きます。



唐津西 RC

7月17日(水)

会長 野崎伸也

幹事 高田武嗣

国際ロータリー第2740地区石坂和彦ガバナーを迎えて公式訪問例会が行われた。石坂ガバナーは卓話の冒頭で、東京など遠方より長崎に帰郷する時、飛行機が唐津上空を通過して長崎空港へ向かう際に、虹の松原が見えると「帰ってきた」と実感するとの事で、「私にとって唐津はひとつの聖地である」と唐津への想いを語られた。

その唐津でこうやって皆さんとお話をする機会を得た中で、例年とは違う植樹の推進、奉仕デーの意味、クラブ活動計画推進者の指名による取組、最後に3か年計画による目標設定など卓話内では話し足りない内容をたくさん聞くことが出来た。

また当クラブの印象を謙虚な姿勢で取り組んでおられると評した上で「積極性も是非発揮してほしい」と期待を述べられた。

記念撮影後に行われた「ガバナーと語る会」では会員からの質問にもユーモアを交えながら熱のこもった対応をされ、3か年計画実施の重要性や会員増強の手法など多岐にわたって意見が交わされた。



## ガバナー公式訪問クラブ報告



諫早 RC

7月26日(金)

会長 小林靖明

幹事 西山浩一

2024年7月26日、国際ロータリー2740地区ガバナー 石坂和彦様、第8グループガバナー補佐 本多善彦様、地区幹事 森広康様をお迎えし、ガバナー公式訪問を実施いたしました。

例会前の懇談会では、当クラブの活動報告等は前もってご覧の上すでに隅々まで把握されており、また今年度の会長方針やこれまでの活動に対してもご理解いただき、また過分なお褒めの言葉を頂き、小林会長以下かなり恐縮しましたが和気あいあいとした懇談会になりました。

例会時のガバナー卓話においては、RI 会長 A. アーチック会長の人柄から始まり、石坂和彦ガバナーが掲げておられます地区運営方針「ロータリーの価値の再発見」の6つのテーマを一つ一つわかりやすく丁寧に説明していただきました。各々が個別に単独で機能するのではなく、石坂ガバナーの地区方針のサブタイトルでもありません「一元融合」のように全ての事柄が円のように繋がり融合していく事の理解が深まったと思います。

例会後には20数名の会員と石坂ガバナーと語る会が催され、地区運営に対する質問に答えていただきました。更に地区とクラブのあり方への理解が進んだと思います。

最後に石坂ガバナーの公式訪問に感謝を申し上げますと共に、ご健康とご活躍を心より祈念申し上げます。



長崎中央 RC

8月5日(月)

会長 安田伸幸

幹事 増井直美

2024年8月5日(月)、石坂和彦ガバナー、中島健太郎ガバナー補佐、森広康地区幹事、芦塚義幸地区副幹事、鳥山雅之地区副幹事をお迎えし、ガバナー公式訪問例会を開催いたしました。

例会に先立ち、当クラブより安田会長、増井幹事(会長エレクト)、徳永副会長(会長ノミニ)が参加し、クラブの現況、及び、クラブが抱える問題点などの報告をさせていただきました。

一番の課題である会員増強に対してガバナー、地区幹事、ガバナー補佐より、衛星クラブの設立や、明確な目標設定、会員周知による目標の共有化というアドバイスを頂きました。また、クラブ行動計画推進者を立ててほしいとの依頼がありました。詳しくは12月にセミナーを開かれるとのこと、しっかり学習する必要があると感じました。

例会での講話では、石坂ガバナーに RI 会長の方針や地区の方針を説明して頂きました。

例会終了後、ロータリアンと語る会が行われ、さまざまな質問に丁寧に答えて頂きました。

最後に、お忙しい中、ご来訪頂いたことに感謝し、これから我がクラブの発展に向けて頑張っていきたいと思っております。



ガバナー公式訪問クラブ報告



福江中央 RC

8月2日(金)

会長 小牧憲明

幹事 小杉勇治

8月2日(金)、午後12時30分より観光ビルはたなかにおいて石坂和彦ガバナー、長谷川宏ガバナー補佐、森広康地区幹事、為永淳子地区副幹事、太田陽子 RYLA 委員長をお迎えしてガバナー公式訪問例会を開催致しました。例会に先立ち、11時30分から50分間、当クラブより会長、会長エレクト、幹事が出席し、クラブ協議会を行いました。

協議会では、当クラブの現状報告、及び活動方針の報告を会長が行い、それに対し、石坂ガバナーからアドバイスを頂きました。また、地区アクションプランについて、森地区幹事から当クラブの状況を確認され、3年間の目標値設定の必要性や重要性のご説明がありました。

当クラブへの評価としては、少人数ながら様々な活動を行っている点をお褒め頂きました。

例会では、石坂ガバナーより、地区テーマや地区運営方針についての卓話を戴きました。

限られた時間の中、重要項目を中心にお話して頂き有難うございました。

例会終了後に、石坂ガバナーと語る会として30分ほどお時間を頂き、当クラブの複数の会員の質問に対し、丁寧にご回答頂きましたことが印象深く記憶に刻まれました。

20時から、懇親会の場を設けさせていただき、お疲れのところご参加頂きましたことを心より御礼申し上げます。

今回ご来訪頂きました石坂ガバナーをはじめ役員の皆様、誠に有難うございました。

今後のご活躍、ご健勝を祈念申し上げます。



長崎 RC

7月25日(木)

会長 鳥巢維文

幹事 森田 誠

令和6年7月25日(木)、石坂和彦 第2740地区ガバナー、長谷川宏ガバナー補佐、森広康地区幹事、鳥山正彦・山口稔 両地区副幹事をお迎えしての公式訪問を、ホテルニュー長崎にて開催いたしました。

例会前の懇談会では、ガバナーより歴史ある当クラブの「現況と活動計画要旨」について、その高いクオリティに感銘を受け、他の模範になるとの賞賛のお言葉を頂戴しました。

その後の例会では、盛大な拍手でご一行をお迎えし、ガバナー・ガバナー補佐・地区幹事の皆様へ、当クラブのバナー贈呈を行いました。

ガバナーの卓話では、元RI会長のテラー氏による「四つのテスト」は、ロータリアンとして、常に意識すべきであることを強調されました。また、アーチックRI会長の言われる「ロータリーのマジック」について、そのロゴマークは、ロータリアンひとりひとりの個性が違って、共に同じ方向を向き、変化と上昇を続けることを表しており、毎日の活動ひとつひとつが「マジック」であるということに熱く語っていただきました。

卓話後には、鳥巢会長からガバナーへ、当クラブの宝である「四つのテスト」の複写を記念品として贈呈しました。また、例会終了後に開催された「ロータリアンと語る会」では、ガバナーと5年未満の会員との間で、活発な意見交換を行うことができました。

大変有意義な時価を過ごさせていただいたことに、石坂ガバナー並びに地区役員の皆様へ感謝申し上げますとともに、今年度のご活躍を心から祈念申し上げます。



国際ロータリー第2740地区 2024-25年度

# 地区大会



2024年11月8日(金)・9日(土)

本会議会場 シーハットおおむら

懇親会会場 ホテルグランドパレス諫早

## 地区大会プログラム

大会1日目  
11月8日(金)

●14:00~20:00

- ポリオイベント
- RI会長代理歓迎晩餐会

会場:ホテルグランドパレス諫早  
(長崎県諫早市宇都町3-35 TEL:0957-24-3939)



タナカハルナ様



↑  
タナカハルナ様  
オフィシャルウェブサイト

会場:シーハットおおむら メインアリーナ

(長崎県大村市幸町25-33 TEL:0957-20-7200)



- 9:00~11:00……ポリオイベント
- 11:15~12:00……登録受付・歓迎コンサート
- 12:15~13:45……本会議[第1部]
- 14:00~15:15……記念講演会(75分)



佐野有美様



↑  
佐野有美様プロフィール  
Amebaオフィシャル



田中れいか様



↑  
田中れいか様プロフィール  
公式ホームページ

●15:30~16:30……本会議[第2部]

懇親会場へ移動

●18:00~19:30……懇親会

会場:ホテルグランドパレス諫早(長崎県諫早市宇都町3-35 TEL:0957-24-3939)

大会3日目  
11月10日(日)

● 8:00~16:00  
記念ゴルフ大会

会場:大村湾カントリー倶楽部ニューコース

(長崎県大村市東野岳町1420-1 TEL:0957-55-3131)



Re:discover the Value Omura

大村の価値再発見伝

## 大村純忠と『天正遣欧少年使節』 — 世界で一番輝いた時代 —

### 【大村純忠について】

天文2年(1533年)に高来郡北有馬の庄、日野江城にて、城主11代有馬晴純の二男として誕生。天文6年(1537年)、4歳で母の実家である大村氏に養子に出されます。大村純前には側室の生んだ実子、又八郎(当時3歳)がいました。又八郎は武雄の後藤家に養子に出され、改名し後藤貴明と名乗ります。

養子である大村純忠に対し、後藤貴明等も含め、従来の大村氏の庶子一族の反抗が何度もありました。純忠は自身の地盤を支えるため、南蛮貿易による経済力と軍事力の強化を進めます。その中で西洋文化への憧憬からか、キリスト教にも興味を示し、少しずつ傾倒していくようになります。

永禄5年(1562年)、大村純忠は領地の横瀬浦(現西海市)を開港。翌1563年、純忠は洗礼を受けドン・バルトロメオの洗礼名を授かります。このとき日本で最初のキリシタン大名となりました。永禄7年(1564年)に三城城(現県忠霊塔)築城。元亀2年(1571年)、福田(旧西彼杵郡)を経て、重臣で娘婿の長崎甚左衛門純景の領地であった長崎を開港します。貿易港・長崎の歴史はこの時から始まります。

### 【天正遣欧少年使節について】

天正7年(1579年)、イタリア人のイエズス会宣教師のヴァリニャーノ神父がヨーロッパに使節団を送ることを計画。大村純忠と相談して4名の少年を派遣することになりました。

一行は1582年2月20日長崎港を出発し、2年半の旅路を経てポルトガルのリスボンに到着。各地で歓迎・歓待を受けました。

彼らが旅立ってから、日本ではキリスト教をめぐる状況が大きく変化していきました。彼らを送り出した大村純忠は死去、天正15年(1587年)には豊臣秀吉により伴天連追放令が出されました。この状況下で当初少年たちは帰国を許されなかったものの、天正18年(1590年)になんとか帰国を許されました。日本を旅立ってから8年5ヶ月の時が流れていました。その後、大村純忠の後継者である大村喜前が棄教したり、徳川家康による禁教令が出されたりなど彼らは多くの困難にぶつかることとなります。

参考文献／大村市史第二巻中世編・志岐隆重著 天正少年使節文責／森本英敏



副使 原マルチノ(丸知野)  
大村領 波佐見城主原純一の子



副使 中浦ジュリアン(寿里安)  
大村領 小佐々家の庶子



正使 千々和ミゲル(弥解留)  
甥の有馬晴信に相談、有馬義直の



正使 伊東マンシヨ(満所)  
日向の大名 伊東義祐の娘の子  
次男で晴信の名代

写真／大村市歴史資料館所蔵(松田毅一南蛮文庫)

### 編集後記

残暑というにはかなりの暑さを誇る日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。多くの皆様のご協力のもと9月号も無事に発行することが出来ました。誠にありがとうございます。ガバナー公式訪問の際には、各クラブの皆様にご温かくお迎えいただき、また公式訪問の報告をご寄稿いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。異常な暑さの今夏、会員の皆様におかれましては、普段以上にご自愛いただきますようお願い申し上げます。

国際ロータリー第2740地区  
ガバナー事務所

〒856-0832  
長崎県大村市本町458番地2 中心市街地複合ビル1階  
TEL0957-51-6439 FAX0957-51-7054  
E-mail:ri2740ishizaka@octp-net.ne.jp



WEBサイト